

第70回

広島県社会福祉夏季大学

超高齢社会をともに生きる

2025年8月28日(木) 13時 ~ 11月28日(金) 17時

オンラインによる開催(動画配信)

※上記期間内であれば、いつでも配信動画を複数回視聴可能です。

対象

福祉・保健・医療・教育・行政関係者、
地域福祉に関心のある県民(一般・学生)等

https://drive.google.com/file/d/1TCBwcY_2E9QEnoGIZIA5QsQijoB8Nloz/view?usp=drive_link



受講料

【一般】2,000円 【学生】無料

開催要綱はこちらです(QRコード)

※学生とは、大学(院)、短期大学、高等専門学校、専修学校の学生で、社会人を除く。

プログラム

【広島県社協イメージキャラクター／ささえるぞう】



講義1 注文をまちがえる料理店 ～ 認知症とともに生きる社会 ～

株式会社大起エンゼルヘルプ 取締役 介護事業部長 **和田 行男**(東京都)

「注文をまちがえる料理店」は、認知症のある人がスタッフとして接客する、ちょっとユニークなレストランです。注文を間違っても笑顔で受け入れる温かい雰囲気が魅力で、まちがいを受け入れる寛容さや多様性の大切さを伝えています。高齢者が安心して集い、役割を持てる居場所づくりや、人とのつながりを育む場など、孤立を防ぐ社会づくりのヒントについて学びます。

講義2 人とつながり、まちを元気にするコミュニティナースとは?

株式会社CNC 代表 **矢田 明子** コミュニティナース 郷原 剛志・多々納 知鶴(島根県)

コミュニティナースは、暮らしのそばで「うれしいや楽しい」を共に作り、心身と社会的な健康に寄与します。島根県雲南市で実施される、社協や地域自主組織、そしてコミュニティナースが生み出す「地域おせっかい会議」との連携の事例提供を通じて、やりたい気持ちを起点に、調和的に共生社会を実現する超高齢社会のあり方について考えます。

講義3 その人らしさを大切に、笑顔でよりよく生きる終活のコツ

一般社団法人おかやまスマイルライフ協会 代表理事 **川上 恵美子**(岡山県)

人生の最期まで自分らしく。葬祭業に携わりながら、身寄りのない高齢者などへの支援の必要性からエンディングソーシャルワーカーとして、終活カウンセリングを行う日々。住み慣れた地域で安心して暮らすことの大切さや、誰もが安心して誰かに見送られるために、孤独や孤立の防止の観点から学びます。

主催:社会福祉法人 広島県社会福祉協議会

共催:社会福祉法人 中国新聞社会事業団

最終申込期限

2025年10月31日(金) ※8/28(金)から、配信予定です。

ご入金後、入金確認まで1週間程度を要します。その後、1週間程度で受講者に動画視聴用URL並びに動画視聴と講座資料のダウンロードが可能なパスワードを送信いたします。

申込方法

インターネットによる申込みのみとなります。右にある専用申込フォームからの申込み後、受講料の振り込みについての案内が表示されます。申込み後に受講料を振り込むことで、受講決定となります。

<https://forms.office.com/r/p0KW9HbYV6>



問合せ先

表面の開催要綱のQRコードか、県社協社会福祉研修センターHPの「お知らせ(その他)」→「夏季大学」をご確認ください。(社福)広島県社会福祉協議会/祉研修センター 電話：082-254-3460

講師プロフィール

和田 行男 (わだ ゆきお)

1987年国鉄の電車修理工から高齢者介護へ転身。特別養護老人ホーム、デイサービス、老人保健施設で介護職・生活相談員を経て1999年東京都初の認知症グループホーム施設長となる。デイサービスで「利用者がプログラムを選択できる運営」や「持てる力を日常生活行為で発揮する」等に取り組み、グループホームを全面的に開花させる。その実践をまとめた著書「大逆転の痴呆ケア」(2003年中央法規社出版)がブレイク。

1990年代半ばより研修会、講演会、学校授業など又、テレビ出演、雑誌新聞への投稿や連載、著名人との対談、YouTubeなどのメディアを通じて、認知症や介護関連のメッセージを送り続けている。

2003年から現職に就き、2012年NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀～」に出演、2017年世界中から注目を集めた「注文をまちがえる料理店」に取り組み。2003年度東京都福祉大会「東京都知事賞」受賞、2018年度日本看護協会ヘルシーソサエティ賞パイオニア部門受賞。現在、家族の介護と健康を支える学研の情報サイト「健達ねっと」を連載中。(毎月1日と15日にアップ)



矢田 明子 (やた あきこ)

島根県出雲市出身。看護師、保健師。父の死をきっかけにコミュニティナースというあり方を着想。2016年5月よりコミュニティナーシングの担い手の育成をスタート。2017年より株式会社CNCを設立。コミュニティナースの社会実装を本格化させる。現在1400人以上の実践家を輩出している。著書『コミュニティナース 一まちを元気にする“おせっかい”焼きの看護師』



郷原 剛志 (ごうばら つよし)

島根県雲南市出身。平成の大合併に作られた地域自主組織の事務局長を長年担う中、コミュニティナースという新たな取り組みを包摂し、地域の活動と馴染ませてきた。現在はCNCのメンバーとして地域とCNCの事業との連携/推進を担当。



多々納 知鶴 (ただの ちづる)

島根県出雲市出身。島根大学医学部看護学科卒業。高校時代にコミュニティナースに出会い、看護学科に入学。学生インターンを経て2022年からCNCに新卒入社。地域のコミュニティナース実践や、「地域おせっかい会議」の推進を担う。



川上 恵美子 (かわかみ えみこ)

岡山で唯一の遺族支援のプロフェッショナル『グリーフサポートバディ』を取得。グリーフサポートの観点を重視し、葬儀の場でご家族の気持ちに寄り添いながら、エンゼルケアなどを通じて出来る限りご家族に参加して頂きながらの見送りを提案。ご家族との対話の中で「人は生きてきたように死んでいく(人の死に様は、人の生き様)」と感じ、最期を迎えるまでの時間をどう過ごすかの重要性について考え、葬儀の場だけではなく、生きている時から『見守り・看取り・見送り』に関わる多職種が連携して家族や地域を支える必要性を実感。

『支える人を支えたい』との想いで、家族葬のファインディングで葬祭業に従事する中、(一社)おかやまスマイルライフ協会を設立。現在では医療・介護従事者対象に『グリーフサポートを軸にした接遇研修』『その人らしさを大切にしたいエンゼルケア』『ご遺族へのグリーフサポート』など各地でセミナーを実施。また岡山初の終活カウンセラーとして『人生を笑顔で送る生き方(逝き方) 本心に自分にとって大切な終活を考える』をテーマに、行政関連や公民館などでもセミナー実績多数。新聞やテレビなどのメディアなどでもその活動は紹介されている。

